

建設工業新聞

発行所 ©日刊建設工業新聞社 2012 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10 電話03(3433)7151 URL:http://www.decn.co.jp/

(10)
2012年(平成24年)6月13日(水曜日)

新聞禁止 放射線



竹林 征三

富士常葉大学名誉教授
山口大学時間学研究所客員教授

つい先日まで日本の文明の行く末の舵を取っていたのが菅前首相だ。菅前首相の心の底が見えない。我々は、菅前首相の言葉の端々から憶測してその真意を知ろうとする。憶測すれば、日本丸の菅船長は日本丸を本気で沈没させようと思えているようにしか思えないから、余計に不安になっている。

1日後には水素爆発が起き、メルトダウンも始まっていた。24時間の初期対応がすべてを決するものであった。いずれ深刻な被害をもたらすのだなど、不安が大きくなってくる。また、慌てて買いだめしなければ物資不足で困るのではないかと、居ても立ってもいられなくなる。人それぞれ事情が異なり、受け取り方と不安の種と度合いが異なる。

目に見えないものの克服

そのようなことより、「人のうわさ」が立つ。「うわさ」が「うわさ」を呼ぶ。そのような不安の種になる「うわさ」を風評という。風評は次々と思いがけない

健康影響は、年間100ミリシーベルト以下では認められない。また、放射線のリスク評価は年間50ミリシーベルト以上の被曝に限定すべきであるという。大阪大学の近藤宗平教授は、「低線量の放射線は有害ではない。いや実際には人間の健康に明らかに有益であることが多い」と述べている。

その放射線を活用したレントゲン撮影により、結核が早期発見できるようになった。また、ガンの治療法として放射線治療が生命文明として人類の繁栄に大きな役割・貢献を果たしてきた。これらは、目に見えない放射線の危険性を完全に封じ込める知恵とノウハウを獲得した結果である。放射線を恐ろしく危険なものとして避けてきたならば実現しなかった。

日本の原子力安全技術は世界一と評価されている。室蘭製鉄所は、世界の原子炉の8割を製鋼している。他の製鉄所では製作できないという。東芝・日立・三菱等の原子力技術は世界をリードしている。英国・米国・カナダ等の日本に続く原子力技術の国々と緊密な友好関係を持っている。

原発事故の当初の数日間、枝野官房長官(当時)が毎回「ただちに深刻な被害が表れる」ということではないので冷静な行動を」と連発していた。事故発生

形を災いを生む。多くの人が関心のあるテーマと、菅氏や枝野氏ら注目される人がいる場所(官邸等)で、災いの種・風評は生まれる。そしてインターネットの情報社会であるから、ネット情報によって一瞬にして日本中から世界中に風評が広がる。

かたちにすることに、その存在を確信できる。平賀源内は、エレキテルの存在を実験して電気を見せた。エジソンが電気力により光をつくらせて見せた。目に見えない電気の存在が恐ろしいものであるとして、それから逃避してきていたならば、現在の電気文明は享受できなかった。

無限再生循環エネルギーの源泉は、太陽エネルギーである。太陽エネルギーの根源は何か、それは原子核分裂と核融合の時に発する熱源である。

その太陽熱エネルギーを人類が身近で利用できるように変換する技術が、原子力発電である。原子力発電は、無限再生循環エネルギーを人類の知恵で獲得

したものである。原子力発電は夢のエネルギーである。人類の知恵は、原子力発電をもつ危険性を極限まで小さくすることに成功した。しかし、想定外の巨大地震の発生により、もう一步のところで事故を起こしてしまった。

所論 諸論

米国保健物理学会の声明では、年間50ミリシーベルト以下は安全であるという。放射線の

眼に見えない現象は人を不安にさせる。眼に見える

無限再生循環エネルギーを人類が身近で利用できるように変換する技術が、原子力発電である。原子力発電は、無限再生循環エネルギーを人類の知恵で獲得

したものである。原子力発電は夢のエネルギーである。人類の知恵は、原子力発電をもつ危険性を極限まで小さくすることに成功した。しかし、想定外の巨大地震の発生により、もう一步のところで事故を起こしてしまった。